

## 「弥生画」を後世に



△旧山道分校に展示されている旧胡桃館小学校の児童たちが制作した弥生画

### 町施設に弥生画を展示

12月末に奉納された弥生画は、毎年「道の駅 鶴の里あるじゃ」に展示されています。子どもたちが制作した弥生画は、「陸奥鶴田駅」コミュニティプラザにて展示しています。



△コミュニティプラザに展示中の弥生画

### 弥生画制作を体験したい方を募集

山道町内会では、町内外問わずに多くの人に弥生画の制作を体験してもらいたいと考えています。昨年は、台湾の慈濟大附属高級中学の生徒が弥生画の制作を体験するなど文化の保存に尽力しています



△昨年行われた台湾の学生による弥生画体験会

鶴田町に約200年以上前から伝わる「弥生画」。弥生画とは、収穫されたアズキやナタネなどの種子10数種類の穀物を着色等を一切せず、画額に一粒ずつ貼り付け、一枚の絵を仕上げる、五穀豊穡を願う伝統文化です。現在は、全国で唯一、鶴田町でしか見ることができません。弥生画の歴史は古く、江戸時代中期の「天明の大飢饉」の頃までさかのぼります。寛政元年（1789年）は夏中、日照りが続き、思い余った農民たちが残り少ない種子を持ち寄り、餅で作ったので板に張り付けて雨の神様に祈願しました。その種を土に植えたところ、翌年は大豊作になったことから、毎年行われるようになったのが弥生画の始まりとされています。弥生画の名称は、日本の農作の夜明けといわれる弥生時代に、穀類・種子類が中国から日本に入ってきたことにちなんで、命名されたといわれています。現在、町では山道町内会（一戸雅人会長）と元町弥生会（小関優会長）の2団体が伝統を引き継いでいます。両会は年末に弥生画を制作し、山道町内会は山道閻魔神社、元町弥生会は鶴田八幡宮にそれぞれ奉納しています。山道町内会では、町内小学校統合により今年3月末で閉校となった胡桃館小学校児童が同会指導を受けて卒業記念として作ってきた弥生画13点（平成16年度から平成29年度卒業生制作）を同校保護者協力のもと、山道地区農村公園内の旧山道分校に運搬し、展示しています。事前に連絡を入れることで、どなたでも観覧できます。同会は毎年大小2つの弥生画を制作しており、小さい弥生画は胡桃館小学校の児童が協力して制作していました。同校の閉校で子どもたちの制作活動の継続が危ぶまれましたが、今年度は子ども会の児童約10人が集まり、年末に奉納する弥生画を制作する予定になっています。長年、弥生画の制作に携わっている山道町内会の澁谷信一さんは「今は60代・70代が中心になって弥生画を制作しているが、次の世代に伝統をうまくバトンタッチできるように体制を作っていくたい。実際に見てまねてもらったことが重要だと思」と話していました。

## 弥生画を体験型観光商品へ

町では、本年度から3年計画で弥生画制作の体験等を組み込んだ体験型観光商品の開発を進めています。

近年はテレビコママーシャルなどの効果で、鶴の舞橋への観光客は増加してきましたが、観光客の滞在時間は平均で45分から1時間と短く、いわゆる「通過型観光地」となっているのが現状です。そこで、町観光ガイドから派生した「まちおこし応援団」を中心に、より多くの方が長時間滞在してくれるような、地域資源を活かした観光商品の開発を観光商品開発に取り組んでいます。



△モニターツアーで弥生画制作中の参加者たち



△モニターツアーで制作された弥生画  
▽弥生画に使用された種子



7月中旬に実施したモニターツアーでは、自然豊かな富士見湖パーク周辺を散策するスタンプリーヤ、町特産品を活用した食事の提供がありました。

弥生画の制作体験もツアーに組み込まれています。2006年から08年の鶴の舞橋改修工事が出た廃材となったヒバを再利用。参加者は、地元の木工職人が加工した10センチ四方の木枠に穀物の種子を木工用接着剤で貼り付ける作業を体験しました。制作には平均で約2時間を要し、完成した作品はお土産品として持ち帰ることができます。モニターツアーの参加者からは「高齢者でも作ることができる」や「弥生画は見たことはあったが、実際に制作してみても新鮮な経験でした」などの感想がありました。

体験型観光商品は今年度、商品の開発に注力し、販売方法や価格設定などを検討していき、来年度から試験的に販売を開始し、三年目には正式な商品として販売する予定になっています。

また、町では冬季の観光入込客数以外のシーズンに比べ少ない現状を改善するため、冬季イベントを企画しています。そのほかにもLED電球を内蔵させた「金魚ねぶた」の鶴パージョン「鶴ねぶた」を富士見湖パーク内に装飾するなど、冬の観光客の呼び込みにも力を入れていく予定です。

## 鶴の舞橋をリアルタイムで見ることが可能に

町では県の「青森県元気な地域づくり支援事業費補助金」を活用して、鶴の舞橋の四季ごとの美しい景色や時間ごとの移り変わりをインターネットで配信し、インバウンドや大都市圏へのPR効果を高めるため、鶴の舞橋周辺にライブカメラを設置しました。

個人や旅行事業者からの問い合わせも多い、天気（積雪状況）や桜の開花状況、紅葉の進行度をリアルタイムで確認できるだけでなく、動画配信することで遠隔地などの閲覧者に四季の魅力を届けることができます。

映像配信は鶴田町観光ウェブマガジン「メデタイ・ツルタ」にて配信しています。

・「メデタイ・ツルタ」

URL : <https://www.medetai-tsuruta.jp/live-camera.html>



△ライブカメラから見える景色